

化学療法を受ける患者に対する看護者の役割

－パンフレット作成とオリエンテーション実施に向けて－

1 病棟 4 階西

○山本由紀 岩下照美 藤井和子 松崎久恵 坂井宏子(1-7) 内田美智子

I はじめに

がん化学療法の進歩はめざましく、新たに有効な抗癌剤も開発され、がん治療法の大きな分野を占めている。婦人科入院患者のうち、子宮癌・卵巣癌などの悪性腫瘍患者が約80%を占めており、化学療法はその治療の重要な柱となっている。その化学療法の方法や副作用について患者への説明は、現在、医師からのみとなっている。看護サイドからは、方法について患者からの質問に応じたり、副作用が出現した際に対処方法を指導するという状況にあった。平成9年5月以降、固定チーム継続受け持ち制を導入し、継続して患者と関わっていく中で、化学療法を受ける患者の身体的・精神的苦痛の大きさを知り、又、担当看護者の役割の重要性を認識した。「化学療法における患者教育はどの段階においても治療の要となってくる」¹⁾といわれており、看護者の果たす役割は大きいと思われる。特に、化学療法を受ける前段階では看護サイドからも説明が必要であり、それにより患者の不安は軽減され、治療に主体的に取り組む姿勢ができてくるのではないかと考えた。

そこで今回、化学療法を受けた患者を対象にアンケート調査を行い、オリエンテーションを実施するためのパンフレットの内容及び看護者に求められているものについて検討したので報告する。

II 研究方法

期間：平成10年5月1日～6月30日

対象：平成6年1月～平成10年6月までに当科で化学療法（全身投与，動注療法）を受けた患者のうち了解を得られた71名である。回収率は91.5%であった。

方法：質問紙法によるアンケート調査 内容としては1) 点滴治療について 2) 副作用について 3) 排泄について 4) 清潔について 5) 食事についてである。

対象となる71名の患者のうち、期間中外来受診予定となっていた患者36名と入院中の患者19名に対しては手渡して、回収した。受診予定となっていない患者16名に対しては郵送し、回収した。

III 結果

1、点滴について

治療の方法について看護者から説明はなくてもよいと答えた人は0人だった。説明してほしい項目としては、一日の点滴の本数 56名 (86.2%)、点滴のある期間 50名 (76.9%)、点滴の始まる日 49名(75.4%)であった。

面することになる。その時大半の患者は予想以上に病気が進行しているのではないかという不安を感じ、動揺の様子が見られる。その事実を受けとめようとする過程において化学療法という未知のものに対する不安が強くなるのではないだろうか。

「疾病の特徴や治療方法を解説したり、これから行なおうとする検査や処置について説明するという方法は、病棟においても外来においてもしばしば行なわれる方法である。これは患者が自分の健康回復のためにしなくてはならないことに主体的に取り組むことができるようにすることと、不安や心配を少なくすることをねらっている」²⁾といわれている。

このことより化学療法前に看護師がオリエンテーションを行なうことにより、患者の不安を軽減できると思われる。又、患者は治療を自分のこととして受けとめるきっかけになるのではないかと考える。

2、パンフレットの検討について

<副作用について>

看護師から説明して欲しい項目として、副作用の具体的内容についてが最も多くなっていた。そこで、アンケート結果に基づき当科の化学療法で実際におこった副作用について記載し、その対処方法について説明を加えた。

①吐き気・嘔吐については、その原因及び対処方法については、ピニール袋を準備しておくことと便利であることや病院のふたつきベースンを使用できること又、座薬・内服薬・注射等の吐き気止めを使用する方法があること

②白血球の低下についての対処方法としては、うがいや手洗いに努め、外出時はマスクを使用し、人混みを避けるなどの感染予防について、又、白血球を増やす注射を使ったり、個室に移る場合もあること

血小板の低下については止血の方法について、歯ブラシを柔らかいものに変えるなど出血予防に努めること

③口腔内の異常については、軟膏により対処できること

④腎臓への影響については、点滴終了後も腎臓の働きを保つため水分摂取に努めることが必要であること

⑤下痢や便秘については、その症状を内服薬により緩和することができること

⑥味覚の異常や手足のしびれ感についてはある程度の時期がすぎれば元に戻ること

⑦脱毛については、ガムテープやスカーフ・ネット・帽子などを準備しておくことよいこと、パーマ・カットは治療前に行なっておいた方がよいこと

以上のことを記載した。

当科での化学療法の副作用のうちアンケートの結果より「脱毛」が最も多くなっていた。脱毛という容貌の変化は患者に与える精神的ダメージが非常に大きいと考えられる。脱毛は一時的なものであり必ず生えてくる事を説明し、ボディイメージの変化により闘病意欲を失わないよう精神的援助が重要となってくると思われる。

現在、婦人科癌の化学療法においては複数の抗がん剤を組合せて投与する多剤併用化学療法が多く用いられている。副作用の出現は、使用する薬剤の種類によってそれぞれ異なってくる。その副作用の程度や出現時期、回復時期も個人差が大きい。看護師は説明をする際、その患者に使用する薬剤の副作用をよく知り、個別的な説明を加える必要があると思われる。

2、副作用について

化学療法の副作用としては脱毛 52名(80.0%)、吐き気・嘔吐 48名(73.8%)、白血球の低下や血液の異常 43名(66.2%)、味覚の異常 42名(64.6%)、手足のしびれ 30名(43.2%)であった。その他としては倦怠感、食欲不振等があった。

副作用について看護者から説明はなくてもよいと答えた人は0人だった。説明して欲しい項目としては、副作用の具体的内容について 50名(76.9%)、副作用の回復時期 48名(73.8%)、副作用の出現時期45名(69.2%)、副作用が起こる理由44名(67.7%)、脱毛時に帽子やスカーフが必要であること43名(66.2%)、脱毛時にガムテープがあると便利であること41名(63.1%)、吐き気・嘔吐時ふたつき容器を使用できること41名(63.1%)であった。

副作用について看護者から説明して欲しい時期は、点滴治療前が50名(76.9%)と最も多かった。

副作用が現われた時看護婦に注意してほしい項目としては、治療中、面会者が来てにぎやかな時は看護婦の方から声をかけてほしい 46名(70.8%)、巡視以外にも様子を見にきてほしい 37名(56.9%)、治療中はお茶を配ってほしい 29名(44.6%)等があった。

3、排泄について

看護婦からも説明してほしい項目としては、蓄尿の必要性43名(66.2%)、蓄尿期間 44名(67.7%)、留置導尿の方法があること37名(56.9%)であった。

4、清潔について

点滴中、清拭タオルを 57名(87.7%)が希望していた。

清拭タオルを配る期間については 43名(66.2%)が点滴のある期間だけを希望していた。その他として点滴後3日間3名(4.6%)、倦怠感のある期間1名(1.5%)などがあった。

5、食事について

点滴中食事をベッドに運ぶようにする時期の希望は、点滴の始まる日の昼食からが44名(67.7%)と最も多かった。

治療が終わってデイルームに食事に行けるようになる時期については、1週間くらい9名(13.8%)、2~3日後4名(6.2%)、その他吐き気がおさまってから1名(1.5%)等ばらつきがみられた。

治療中や治療終了後どのようなものが食べやすいかについてはあっさりしたもの 47名(72.3%)、冷たい飲み物 41名(63.1%)、果物 38名(58.5%)であった。

治療中や治療終了後の食べやすい食事の内容の説明については、55名(84.6%)が希望していた。

IV考察

1、化学療法導入前の看護者の説明の重要性

現在、当科での化学療法についての説明は、医師が化学療法導入前に患者・家族を含めて行なっている。その内容は病状の説明及び化学療法の必要性に重点が置かれていると思われる。しかし、アンケートの結果、患者は化学療法の方法・副作用・日常生活に至る全般的過程において医師からの説明だけでなく看護者からも説明を希望していることがわかった。

又、医師からの説明時、患者は初めて化学療法を行なわなければならないという事実直

<日程表について>

アンケート結果より患者の要望を考慮し、清拭タオルを渡す期間は、原則として点滴のある期間と決め、その後は患者の状態にあわせて変更することとした。配膳の場所をデイルームからベッドに移す時期は、点滴の始まる日の昼食からとし担当看護婦があらかじめ変更しておく事とした。デイルームに変更する時期は副作用の回復時期が個々によって違い、患者の要望にもばらつきがあるため、担当看護婦が患者と話し合っ決めて決めることとした。又、蓄尿期間については、医師へ確認をとり、薬剤及び投与方法別に蓄尿期間を決め、医師・看護者間で統一させるようにした。そして、患者にも分かりやすいように点滴の期間、一日の点滴の本数とともにこれらを日程表で示すこととした。

<食事のポイントについて>

治療中に食べやすい食事の説明を希望する患者が多く、食事についての援助の必要性が感じられた。「少しでも食べられると、患者は闘病意欲を増し、心身ともに回復していくものである。」³⁾ このことから化学療法を受ける患者に食事指導をすることは看護者の重要な役割であると考えられる。アンケートの結果より治療中食べやすかったものを考慮し、“食事についてのポイント”のパンフレットも作成することとした。

3、看護者の役割について

副作用が現われた時看護者に注意してほしい項目としては、同室者の面会に対する看護者の対応の仕方、巡視時間以外の訪室、治療中のお茶配り等の要望があった。このことから、治療中は、看護者として更に細かい心配りをしなければならないことがわかった。

化学療法を受ける患者に対する看護者の役割として、不安を軽減し、治療に対して主体的な姿勢をつくり、緩和ケアを行なうことで治療を中断せず継続できるよう働き掛けることであると考える。今後はこのパンフレットを用い、化学療法を受ける患者の看護に役立てていきたい。

<引用文献・参考文献>

- 1) 渡辺孝子他：がん治療の副作用対策と看護ケア -化学療法を中心に-，先端医学社，p. 52, 1994
- 2) 井上幸子他：看護学大系第6巻 看護の方法(1)，日本看護協会出版会，p189, 1991
- 3) 渡辺孝子他：がん治療の副作用対策と看護ケア -化学療法を中心に-，先端医学社，p54, 1994
- 4) 渡辺孝子他：がん治療の副作用対策と看護ケア -化学療法を中心に-，先端医学社，1994
- 5) 福山一美：化学療法とケア 臨床看護第22巻13号，へるす出版，1996
- 6) 日野原重明：ナーシングマニュアル第1巻 がん看護マニュアル，学習研究者，1990
- 7) 小玉香津子：看護必携シリーズ第1巻 看護の基礎技術 I，学習研究所，1997
- 8) 富野廉日己：症状・疾患別食事指導の看護へのいかしかた，医歯薬出版株式会社，1995
- 9) 吉田清一：がん化学療法の副作用対策ハンドブック，先端医学社，1994
- 10) 塚越茂：癌化学療法ハンドブック97，協和企画通信，1998

アンケート調査にご協力をお願い

私たちは、よりよい看護をめざして、点滴治療を受けられた皆様のご意見を参考にしたいと思ひます

皆様には大変ご迷惑をおかけ致しますが、ご協力お願い致します

また、いただきましたご回答は、秘密を厳守いたしますので、ご遠慮なくご記入いただきますようお願い申し上げます

当てはまるところに○を付けて下さい

1、点滴治療の方法について看護婦からも説明したらよいと思う項目について

全てに ○を付けて下さい

- 点滴の始まる日
- 点滴のある期間
- 一日の点滴の本数
- 点滴の針を血管に留置すること
- 尿をなぜ蓄める必要があるのか
- 尿を貯める期間
- 尿量が多くなるため尿の管を入れる方法があること
- その他 ()
- 説明はなくてもよい

2、点滴治療の副作用については個人差がありますが、実際にどのような副作用がありましたか 全てに、○を付けて下さい

- 吐き気・嘔吐
- 白血球の低下や血液の異常
- 脱毛
- 下痢
- 口のなかのできもの
- 味覚の異常
- 手足のしびれ
- その他 ()

3、現在看護婦から点滴治療の副作用について事前に説明しておりません。

患者さんより質問があったときに対応している状況ですが、看護婦からも説明したらよいと思う項目について全てに、○を付けて下さい

- 副作用にはどのようなものがあるか

6、食事の内容を昼食のご飯をめん類に変更したり、食事を止めたりする事等ができませんが知っていましたか

- はい
- いいえ

7、点滴中食事をベッドに運ぶようにしていますが、いつからがいいですか

- 点滴が始まる日の朝食から
- 点滴が始まる日の昼食から
- その他 ()

8、点滴が終わって、デイルームに食事を食べに行けるようになるのはいつ頃ですか

9、点滴中や点滴終了後、どのようなものが食べやすいですか 全てに、○を付けて下さい

- 少し濃い味のめん
- 水分の多いもの
- あっさりしたもの
- フルーツ缶詰
- 冷たい飲み物
- 果物
- その他 ()

10、点滴中や点滴終了後の食べやすい食事の内容等の説明があれば希望されますか

- はい
- いいえ

11、点滴中、蒸しタオルを配るようになっていますが希望されますか

- はい
- いいえ

12、蒸しタオルはどれくらいの期間希望されますか

- 点滴のある期間だけ
- その他 ()

13、点滴治療中の看護婦の対応について、ご意見ご希望があれば

ご遠慮なくお書きください

副作用はいつ頃ですか

副作用はいつ頃おさまるのか

なぜ副作用が起こるのか

吐き気・嘔吐時ビニール袋を用意しておくこと

吐き気・嘔吐時ふたつき容器を使用できること

吐き気・嘔吐が続く時吐き気止めを使用できること

吐き気・嘔吐時に食べやすい食事について

白血球低下時、手洗い・うがいが必要であること

白血球低下時、白血球を増やす注射を使うことがあること

白血球低下時、個室に移ることがあること

脱毛時、ガムテープがあると便利であること

脱毛時、帽子やスカーフが必要であること

その他 ()

説明はなくてもよい

4、点滴治療の副作用について、看護婦からの説明の時期としてはいつがいいですか

点滴治療前

点滴治療中

点滴治療が終わって

副作用がでてから

その他 ()

説明はなくてもよい

5、副作用がでた時、看護婦に注意してほしい項目について全てに、○を付けて下さい

巡視時、声をかけずに吐物の処理をしてほしい

巡視時、あまり声をかけてほしくない

巡視以外にも様子をみにきてほしい

治療中はお茶を配ってほしい

治療中はゴミを捨ててほしい

白血球低下時、お茶を配ってほしい

白血球低下時、ゴミを捨ててほしい

治療中、同室者の面会者が来てにぎやかな時はデイルームの方で面会するように看護婦の方から声をかけてほしい

脱毛後、検査などで移動する場合、なるべく多くの人にみられたくないと思うので注意してほしい

その他 ()

ご協力ありがとうございました

一日も早いご回復をお祈りいたします